ISSN 1347-3085

日本地衣学会 ニュースレター No.39

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目　次

会員通信……135
雲南地衣類調査行2003（その4）／原田 浩……135

会員通信　From Members

雲南地衣類調査行 2003（その4）

「東アジア産淡水生アナイボゴケ科地衣類の生育地調査と分類学的検討」のために，中国雲南省における調査を 2003 年 9 月に行い，そのときの話をこれまで 3 回に亘って紹介してきた．今回は，いよいよ（ラオジンシャン）老君山である．本誌 33 号，p113 から始まる「雲南地衣類調査行 2003（その２）」をご覧いただくと，地図でだいたいの位置が確認いただける．老君山は雲南省の省都，昆明（クンミン）から北西に直線距離で約 400km の地点である．大理石の語源となった大理（ダーリ）から北に上がった剣川（ジェンチュアン）の街が近い．老君山（ラオジンシャン）は標高 4000mほどの山で，山頂部には，九十九龍潭（ジュウスージュウロンタン）と呼ばれるほど，たくさんの湖があるのだそうだ．

＊　＊　＊

9 月 15 日，剣川を発った我々の車は山道をどんどん登っていった.標高 3500m ほどになるとナガサルオガセが風に揺れる光景が目に入り,霧に煙りだすと何かワクワクしてくるのはいつものことだ.何か出てきそうだという期待に胸が膨らむ．

やがて，標高 3800mの湖のほとりにある森林管理処に到着した．王さんの言うとおり，水が豊かな山だ．シャクナゲ類や針葉樹に囲まれ湖から流れ落ちる渓流のほとりや,上手の湖に流れ込む緩やかな流れの中の石の上の淡水生アナイボゴケ科などを調査するのにはもってこいだった．下りながらも，何箇所かきれいな水が流れ落ちる脇には多量のアナイボゴケ属が見つかった．・・・研究の話はそれくらいにして，大型地衣類の話をしよう．

Sulcaria virens

今回の調査で,単純に「見てみたい」という地衣類が,先に紹介した *Lethariella* の他にもう一つあった．*Sulcaria virens* である．*Sulcaria* はバンダイキノリ属,つまり日本でいうと,主に冷温帯に分布するバンダイキノリ *Sulcaria sulcata* が知られるのみである．バンダイキノリが淡褐色なのにたいし，*Sulcaria virens* は鮮やかな黄色で,しかもナガサルオガセのように垂れ下がるのだという．ともかく，めちゃめちゃ目立つ地衣類なのだ．これは，是が非でも見ておかなくては，という気持ちを解っていただけるだろう．

針葉樹の樹幹から垂れ下がる *Sulcaria virens* を,管理処に着く前,坂を車で登りながら何度も目にしていたが，実際に間近で見たのは帰りがけだった．管理処から

林道を少し下ったところに念願の姿を拝むことができた．

図 1 をご覧いただこう．ナガサルオガセ（左側の色の薄い方）と並んで写っているので，だいたいの様子はわかると思う．樹幹や枝にこんなものがぶら下がっているので，いやでも目に入ってくる．比較的落ち着いた色調の針葉樹林に鮮やかな黄色が強烈なアクセントとなっていた．

図 1．黄金色の *Sulcaria virens* が垂れ下がる．淡色のナガサルオガセ（左）と並ぶ．

カブトゴケ科の楽園か

この山でもう一つ紹介しておきたいのは，Lichenology2（2）の表紙にもなった，カブトゴケの仲間だ．標高 3500m くらいだったろうか，ちょっと窪みがちの斜面の湿性林（ヤナギの仲間などが生えていた）が特にすごかった．幹やら枝やらをカブトゴケ属 *Lobaria* やヨロイゴケ属 *Sticta* といったカブトゴケ科の大形の葉状地衣が所狭しとまとわりつくように着生していた（図 2）．カブトゴケ属をご専門とされる吉村会長には是非ともご覧いただきたい場所である．また，日本地衣学会の観察会も将来はここで開催したいなどと，王さんと話が弾んでしまった．

日本で地衣類を見ていると，ブナ林がカブトゴケ属の本場のように思ってしまうが，老君山のこの光景を見ると考えを変えざるを得ないという気になる．

石林へ

老君山を去り，昆明を経由し，今度は昆明の北へ，また昆明へ戻り今度は東へ．石林（シーリン），ここは是非とも訪れたかった場所である．石灰岩の露頭が林立することから名づけられた景勝地である．幾多のガイドブックやホームページに写真は紹介されているので，核心部分の景観写真はそちらをご覧いただこう．私の専門とす

図 2．カブトゴケ属やヨロイゴケ属が繁茂する．カブトゴケ科の楽園だ．このような光景を日本で見ることは，少なくとも現在は期待できない．

るアナイボゴケ科は，石灰岩にも出現種が多いので，何れは本格的に調べたいと思っていたのだが，こうしてやっと訪れることができた（図3）．とはいっても，採集許可の関係で，石林の核心部（観光地）ではなく周辺部であるが，その片鱗をのぞき見ることができた．そこは，石灰岩の露頭が点在しており，露頭の周囲は全て畑地と

図 3．観光地，石林から外れるが，石灰岩露頭は多い．乾性（？）の石灰岩生地衣類がたくさん見つかる．

なっていた．従って，石灰岩生のなかでも比較的乾燥に強い種類にとっては好適な環境が保たれていると想像された．・・・いつかは石灰岩地についても，本格的な調査を行いたいという気持ちは，更に強まることとなった．

＊　＊　＊

私の「雲南地衣類調査行 2003」はこれで終わりとしたい．次は 2005 年 2 月に，同じ研究テーマで雲南省南部において 3 週間の調査を実施することになっているので，機会があれば本誌で報告したい．

＊　＊　＊

広島大学大学院の高橋奏恵さんが，カブトゴケ科ヨロイゴケ属 *Sticta* の分類学的研究をされていることは，ご存知だろうか（本誌 11 号に，ヘルシンキ大学を訪れた記事を書いていただいた）．その彼女もついに今月 6 日（？）に雲南を訪れることになったという．カブトゴケ科の楽園である雲南を，その目で見てくることはとても意義深いことだと思う．帰国後，その報告をしていただくことになっているので，お楽しみに．

（原田 浩：千葉県立中央博物館）

●*Lichenology　日本地衣学会ニュースレター*
とも，投稿先は：

原田　浩．〒260-8682千葉市中央区青葉町955-2
千葉県立中央博物館．Fax 043-266-2481.
E-mail: h.hrd3@mc.pref.chiba.jp
（原田浩：編集委員長）

●複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は，許諾を受けてください．詳細は本誌31号110ページに．

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see no. 31, p. 110 of this publication.

日本地衣学会ニュースレター 39号
発行日：2004年 6月15日
編集：　原田浩・岡本達哉・木下靖浩・棚橋孝雄
発行者・発行所：日本地衣学会
〒010-0195　秋田市下新城中野
秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内

©2004 日本地衣学会　（© 2004 The Japanese Society for Lichenology）
本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します．無断転載・無断複写等は固くお断りいたします．